

研修会報告

令和 4 年 5 月 30 日

文責：高橋 良輔

研修会テーマ「令和 3 年度細胞診精度管理フォローアップ研修会」

開催日時 令和 4 年 5 月 29 日（日）13：00～15：50

会場 Zoom ウェビナーによる Web 開催

司会 佐藤 しげみ

生涯教育点数 専門教科 20 点

参加者 会員参加者 33 名 入会申請中会員 名 非会員 名 賛助会員 名 学生 名
合計 33 名

講演 1 「令和 3 年度細胞診精度管理調査報告・設問解説」

仙台医療センター 齋藤 邦倫

講演 2 「気管支ブラシ洗浄液における LBC 法の有用性

～精度管理教育症例解説を含めて～

大崎市民病院 戸村 弘樹

講演 3 「令和 3 年度細胞診精度管理アンケート調査結果報告

（がんゲノム診療における細胞検体の取扱いについて）」

東北公済病院 高橋 良輔

講演 4 「遺伝子検査における細胞検体の可能性と今後の課題」

久留米大学病院 病理診断科・病理部 河原 明彦

内容

新型コロナウイルス感染拡大の影響が続いており、令和 3 年度の細胞診精度管理フォローアップ研修会も前年と同様に Zoom による Web での開催となった。

講演 1 では細胞診精度管理調査報告・解説を行った。全ての設問において正答率は良好だったが、一部で設問の難易度に問題ありとの指摘を受けていたため、その設問については他の設問よりも時間を割いて解説した。

講演 2 では、教育症例提供にご協力頂いた戸村弘樹技師より、症例解説と、気管支洗浄液における LBC 法の有用性についてご講演頂いた。セルブロック作製についても触れており、遺伝子検査にも関連してお話し頂いた。

講演 3 では、アンケートにより、細胞検体の取扱いにおいてセルブロック作製に時間的な問題があることが分かったため、その問題点について考察し、結果と共に報告した。

講演 4 では、日本臨床細胞学会・ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループの委員を務め、がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針の作成に携わった、河原明彦様にご講演頂いた。現在ワーキンググループで様々な検討がなされているが、

細胞検体を用いた遺伝子検査の標準化の難しさと、それらを踏まえた今後の指針の方向性が窺える内容だった。質疑応答では遺伝子検査の精度管理の難しさを訴える声があり、技師会への期待と課題も投げかけられた。

今後も宮城県臨床検査技師会員のために楽しく学べる研修会を開催し、勉強する場を提供したい。